

春日部市教育委員会 2005 『浜川戸遺跡1、2、3、4次調査地点』春日部市埋蔵文化財調査報告書第14集 p223の図に一部加筆修正を加え作成

第60図 東国須恵器生産窯跡分布図

大道遺跡の土師器焼成土坑出土土器の切り離し技法は糸切り無調整で再調整は1点のみである。器形的には海道西遺跡 SK01 第37図1は大道第1遺跡 SK01 第38図127に近いが、SK01は口唇部がやや外反するのに対して大道第1遺跡は直線的である。SK01 第37図11と大道第1遺跡 SK02 第39図133も同様であろう。黒色処理された高台付壺は、大道第1遺跡では133に高台を貼付けた器形だが、海道西遺跡は SI02 第40図47に高台を貼付けた体部が直線的に広がる器形である。また、高台の形状は大道第2遺跡に近い形状をみるが総じて短脚が多い。このような違いから大道遺跡の土師器焼成土坑出土土器とは若干の時期差を示唆させる。ただ、大道遺跡の竪穴建物跡出土土器では底部周辺ヘラケズリや器形的にも類似するものが出土している。今回は土師器焼成土坑出土土器との比較に留め、今後、資料の増加と詳細な検討によるロクロ土師器の生産と広がりの解明に期待したい。

### 3. 大林河畔砂丘の形成年代について

海道西遺跡が立地する大林河畔砂丘は市内に存在する5か所の河畔砂丘のうち、北から2か所目に位置する。ちなみに市内の河畔砂丘を北から列記すると、袋山河畔砂丘・大林河畔砂丘・北越谷河畔砂丘・東越谷河畔砂丘・大相模河畔砂丘となる（註8）。大林河畔砂丘は直線状で細長い1列の河畔砂丘（第3図・第59図）であり、中ほどに大林寺をのせ、長さ550m、幅40m、低地との比高は約3mとなっている。

今回の海道西遺跡発掘調査は大林河畔砂丘で初めての調査事例であるのみならず、市内の河畔砂丘上の遺跡としても初めての調査事例である。今回、遺跡の内容解明を目的とすると同時に、大林河畔砂丘の形成年代についても検討を行った。

第61図は第14図d-d'断面を調査終了後に深掘りし、断面を追加したものである（註9）。表土下に18世紀後半以降の堆積土1・2が厚さ約25cm～60cm存在する。SD01は18世紀後半の溝であり（10ページ参照）、SK03を切る。SK03は9世紀後半から10世紀初頭の土坑である（9ページ参照）。

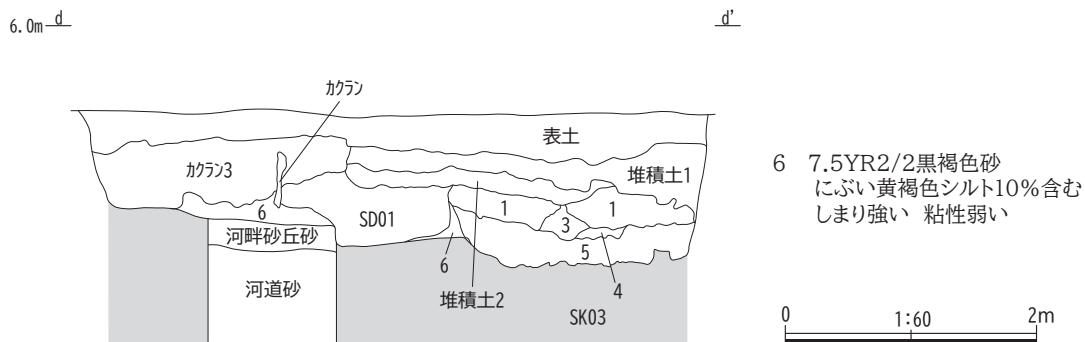
第61図6層はSD01・SK03が掘り込まれる土層であるが、河畔砂丘砂かどうかの判断は困難であり性格不明である。ただし、それよりも下位の層は淘汰の良さなどから河畔砂丘砂であることが確認できた（註9）。確実に河畔砂丘砂と言える層は厚さ約25cmを測る。河畔砂丘砂の下位は河道砂であり、河畔砂丘砂よりも淘汰が悪く、巣穴化石が見られる。標高約3.5mまで掘り下げ、河道砂は少なくとも厚さ約80cm存在することを確認した。

よって、SK03は河畔砂丘砂よりも上位に堆積する6層を掘り込んでいるため、SK03の帰属時期である9世紀後半から10世紀初頭には河畔砂丘砂が堆積していた可能性がある。又はその可能性が高い。なお、その可能性を補強することになる、SK03埋土に河畔砂丘砂が含まれているかどうかについてはSK03埋土が砂主体であることから判断できなかった。

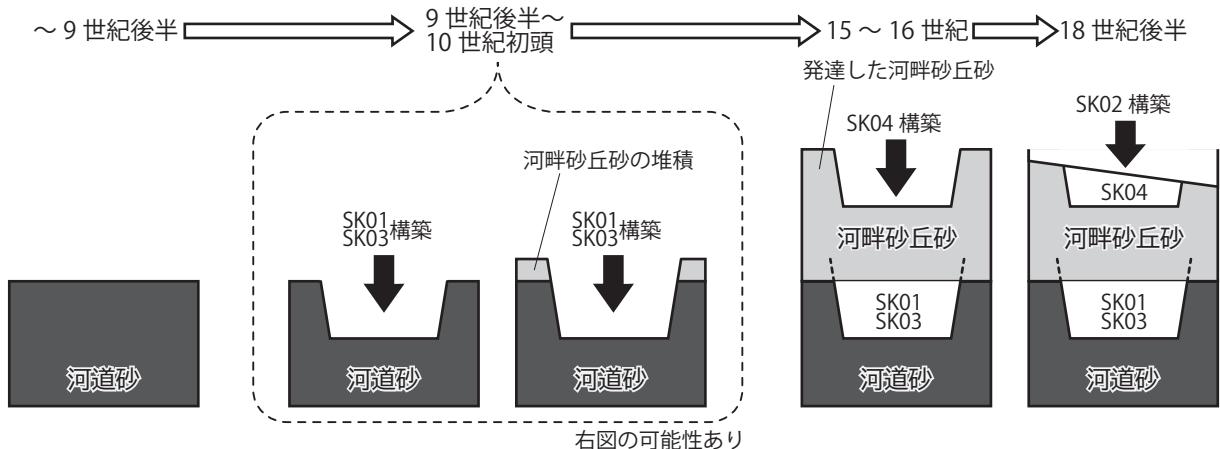
次に河畔砂丘の終了について考えた場合、火葬土坑であるSK04が鍵になると考えられる。SK04は横長の焼成坑の片側に張り出し部が取り付くもので、全体でT字形を呈するものであり、築瀬氏分類のB1類に相当する。房総の事例を援用すると15世紀から16世紀に比定されると考えられる（註10）。SK04を含む調査区断面である第15図e-e'断面を見ると、残念ながら近世以降のSK02によりSK04が削平されている。よって、SK04が河畔砂丘砂をどの面から掘り込んでいるかについて確認することができない。他の河畔砂丘上の遺跡の調査例などでは、中世に河畔砂丘の形成が終了している事例があるため、本遺跡において層位的な根拠は示せないが、SK04は河畔砂丘砂を掘り込んで構築されていたと考えたい。つまり、15世紀から16世紀頃には河畔砂丘が完成していたと想定する。

以上の内容をモデル化したものが第62図である（註11）。9世紀後半から10世紀初頭については可能性も含めて2つの場合を提示した。どちらにせよ河畔砂丘砂の下位は河道砂であるため、河畔砂丘が完成する前に、水害の危険のある河道際に住み着いたことになる。この点について疑問が残るが、すでに河畔砂丘砂が堆積し始めていたのであれば、河畔砂丘が堤防の役割を果たしていた可能性がある。

中川水系の河畔砂丘の形成年代については、それぞれの河畔砂丘により形成された時代が違うという指摘がある上で、これまでの河畔砂丘上の発掘調査等事例から、形成の始まりについて新しい年代を示すものは浜川戸河畔砂丘であり、これは砂丘下のシルト層から出土した遺物が9世紀後半代であること



第61図 河畔砂丘砂及び河道砂とd-d' 断面の関係



第62図 大林河畔砂丘形成と遺構構築の関係

を根拠とする。終了を示すもので最も古い年代は同じく浜川戸河畔砂丘の鎌倉時代中ごろとされている。

今回の調査において、大林河畔砂丘においては砂丘上でも人々の活動があつたこと、河畔砂丘形成時点でも活動が継続していたこと、少なくとも大林河畔砂丘の形成の始まりは浜川戸河畔砂丘の始まりとほぼ同時期であることが実証できたと言える。

(註1) 春日部市教育委員会 2005『浜川戸遺跡1、2、3、4次調査地点』春日部市埋蔵文化財調査報告書第14集

(註2) 春日部市教育委員会 1999『小渕山下北遺跡 八木崎遺跡2次 花積内谷耕地遺跡5次』春日部市埋蔵文化財調査報告書第8集

(註3) 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2002『八木崎遺跡－県立春日部高等学校関係埋蔵文化財発掘調査報告書－』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第281集

(註4) 春日部市教育委員会 2005『浜川戸遺跡1、2、3、4次調査地点』春日部市埋蔵文化財調査報告書第14集p230

(註5) 国土交通省関東地方整備局・公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2013『八條遺跡－中川右岸改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第407集

(註6) 春日部市教育委員会 2002『浜川戸遺跡8、10次 花積台耕地遺跡6次 慈恩寺原南遺跡 塚内18号墳』春日部市埋蔵文化財調査報告書第12集

(註7) 越谷市教育委員会 2016『大道遺跡発掘調査報告書I－西大袋土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－』越谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第1集

(註8) 埼玉県 1993『河畔砂丘』『中川水系 総論・自然 中川水系総合調査報告書1』

(註9) 令和4年5月12日、現地で足立久男氏、小川政之氏、平社定夫氏の3氏と共に検討を行った。

(註10) 築瀬裕一「房総の中世墓」『日本の中世墓』高志書院

(註11) 大林河畔砂丘の形成と遺構の彫り込み面を一部推定してモデル化した図であり、各層の厚さや遺構の掘削深度を正確に表したものではない。

ただし、SK01・SK03 底面が河道砂であることは現地で平社定夫氏からご教示を得た。

## 引用・参考文献

菟原雄大・鬼塚千花 2020「越谷市増林中妻遺跡－市域で初めて確認された古墳時代前期の遺跡－」『埼玉考古』第55号

春日部市遺跡調査会 1998『小渕山下北遺跡2次』春日部市遺跡調査会報告書第5集

春日部市遺跡調査会 2001『浜川戸遺跡17、19、20次－都市計画道路武里内牧線造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』  
春日部市遺跡調査会報告書第12集

春日部市遺跡調査会 2004『小渕山下北遺跡7次調査地点』春日部市遺跡調査会報告書第15集

春日部市遺跡調査会 2006『小渕山下遺跡2次調査地点－共同住宅建築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』春日部市遺跡調査会  
報告書第18集

春日部市教育委員会 1999『小渕山下北遺跡 八木崎遺跡2次 花積内谷耕地遺跡5次』春日部市埋蔵文化財調査報告書第8集

春日部市教育委員会 2002『浜川戸遺跡8、10次 花積台耕地遺跡6次 慈恩寺原南遺跡 塚内18号墳』春日部市埋蔵文化財  
調査報告書第12集

春日部市教育委員会 2004『八木崎遺跡3次・浜川戸遺跡27、28次・小渕山下北遺跡6次・慈恩寺原南遺跡2次』春日部市埋蔵  
文化財調査報告書第13集

春日部市教育委員会 2005『浜川戸遺跡1、2、3、4次調査地点』春日部市埋蔵文化財調査報告書第14集

加藤恭朗・根本 靖・富元久真子・坂野千登勢・平野寛之 2015『南比企窯と東金子（II）－東金子窯の開窯と9世紀の編年－』  
古代の入間を考える会

国土交通省関東地方整備局・公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2013『八條遺跡－中川右岸改修事業に伴う埋蔵文化財  
発掘調査報告書－』埼玉県埋蔵文化財調査事業  
団報告書第407集

越谷市 1975『越谷市史一 通史上』 越谷市役所

越谷市教育委員会 2016『大道遺跡発掘調査報告書I－西大袋土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－』  
越谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第1集

越谷市教育委員会 2017『越ヶ谷御殿跡発掘調査報告書I－サンリットタウン越谷A・サンリットタウン越谷B新築工事に係る埋  
蔵文化財発掘調査報告書－』越谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第2集

埼玉県 1993『河畔砂丘』『中川水系 総論・自然 中川水系総合調査報告書1』

埼玉県・財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2002『八木崎遺跡－県立春日部高等学校関係埋蔵文化財発掘調査報告書－』  
埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第281集

埼玉県・公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2022『越谷警察署前遺跡－越谷警察署仮設庁舎建設工事（越谷警察署前遺跡  
(No.78-016) 埋蔵文化財発掘調査業務委託）埋蔵文化財発掘調査報告  
書』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第478集

平社定夫・佐藤和平・堀口萬吉 1994『埼玉平野の河畔砂丘』埼玉大学紀要（自然科学篇）第29巻（p121～143）別刷  
埼玉大学教養部